



## 令和元年 8月の園だより



### 【自立に向けて】

梅雨が明け、蝉の鳴き声が一段と賑やかになり、本格的な夏がやって来ました。子どもたちは、暑さもなんのそので、元気いっぱいです。今月も引き続き、水あそびや泥んこ、絵の具あそびなど、夏ならではのあそびを思いっきり楽しんでいきたいと思えます。

さて先週になりますが、第二みみよう保育園の年長組さんは、北広島町のログハウスへお泊り保育に行ってきました。無事に帰ってきた子どもたちの表情からは、楽しい体験をしたり、お父さんお母さんと離れてちょっぴり不安だったけれども「がんばった」という満足感が伺え、目に見えない大きな成長を感じました。

お泊り保育では、保護者の方がいなくても、身の回りのことは自分ですることや、雄大な自然の中で、日常味わうことのできない経験をしたり、友だちと助けあったり、チャレンジしたりして、「やればできる」という達成感を感じたり、自信を持つことをねらいとしています。

中でも、身の回りのことは自分でするという基本的な生活習慣の自立は、年長児になったから、小学生になるからといって突然できるようになるものではありません。0歳からの積み重ねであり、生まれてからずっと身近な大人に大切にお世話してもらっているうちに、何でも「自分で」と自立に向かっていきます。2歳前後の自我の芽生えの時期が、自立に向けての大事な節目になりますので、この時期特に、子どものやりたい気持ちを大切にいき

たいものです。

例えば、こじか組の部屋に入ると、「〇〇ちゃんか！」と言って、自分でズボンや紙パンツをはこうと悪戦苦闘している姿をよくみかけますが、この時「まだ十分にできないから」とか、「時間がかかるから」と言って、つい大人が全部やってしまうと自立のタイミングをのがしてしまい、依存心の強い子どもに育ってしまいます。子どもの「自分で」というサインを見逃さず、できた時には、しっかり褒めて頑張りを認めてあげるのはもちろん、自分でやろうとしている姿を見守りながら、時には「ちょっと手伝ってもいい？」と手を添えて一緒にやってみたり、さりげなく履きやすいように揃えておいてあげたりして、子どもの成長やその時々のおいに合わせながら、大人がゆったりと気長にかまえて、根気よく関わっていくことが大切です。

この子たちが、お泊り保育に行くのは3~5年後で、もう少し先になりますが、年長組になったお子さんの成長に見通しをもって、年少組になる頃には、簡単な身の周りのことが自分でできるよう、園とご家庭がお互いに連携をとり、お子さんの今の状況に合わせて、関わり方や手立てを一緒に考えながら、自立を促していきましょう。

8月は、お盆など出かける機会が多くなり、生活リズムがくずれがちになります。体調に十分に気をつけて、元気に楽しい夏をお過ごしください。

園長

